

平成26年度男女共同参画推進に関する意識調査結果

(実施期間:平成27年1月13日～1月23日)

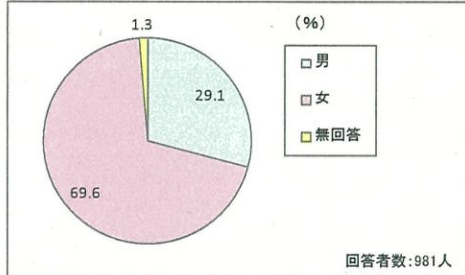
回答者 一覧表

職名	総員数(人)	年代							回答数(人)			回収率(%)
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	男	女	無回答	
教員	856	0	3	50	64	38	12	1	168			19.6
									122	45	1	
医員	126	0	10	25	4	1	0	0	40			31.7
									13	27	0	
研修医	73	0	6	6	0	0	0	0	12			16.4
									5	7	0	
看護師	699	1	187	111	72	21	3	0	395			56.5
									27	363	5	
メディカル スタッフ	169	0	17	15	9	15	3	0	59			34.9
									22	37	0	
事務職員	481 (内:常勤136人 非常勤345人)	1	17	57	63	58	9	1	206			42.8
									53	149	4	
技術職員	164	0	18	21	18	19	6	0	82			50.0
									37	44	1	
その他	-	0	0	2	2	4	4	0	12			-
									4	7	1	
職名無回答	-	0	1	1	1	1	2	1	2	4	1	-
男性	1126								285			25.3
女性	1442								683			47.4
性別無回答	-								13			-
総合計	2568	2	259	288	233	157	39	3	981			38.2
									285	683	13	

アンケートの集計結果

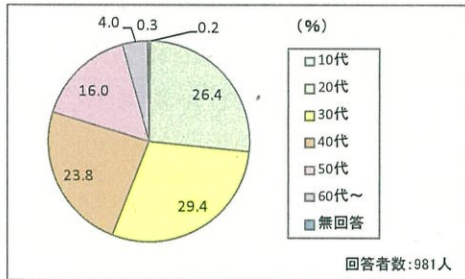
Q1. 回答者のプロフィール

1) 性別



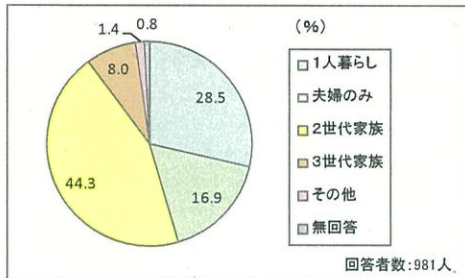
回答者の性別は「男」が29.1%に対して「女」が69.6%と、女性が男性の約2.4倍となっています。

2) 年代



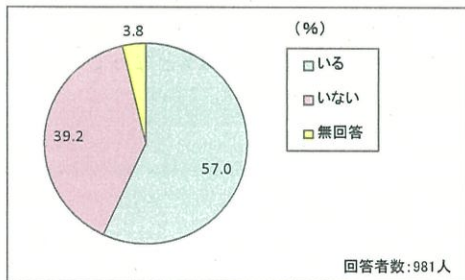
最も多い年代は「30代」の29.4%で、以下「20代」の26.4%、「40代」の23.8%となっています。

3) 家族構成



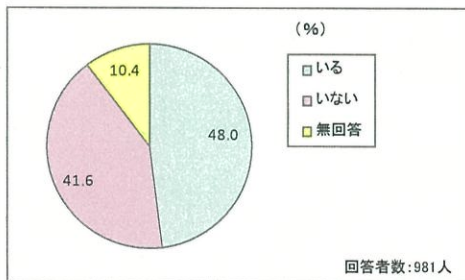
最も多い家族構成は「2世代家族」の44.3%で、以下「1人暮らし」の28.5%、「夫婦のみ」の16.9%となっています。

4) パートナー



パートナーの有無では「いる」方が57.0%で、「いない」方の39.2%を17.8ポイント上回っています。

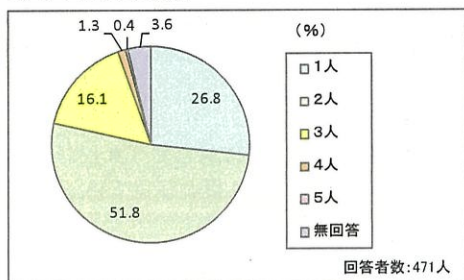
5) 子どもの有無



子どもの有無では「いる」方が48.0%で、「いない」方の41.6%を6.4ポイント上回っています。

(子供がいる方)

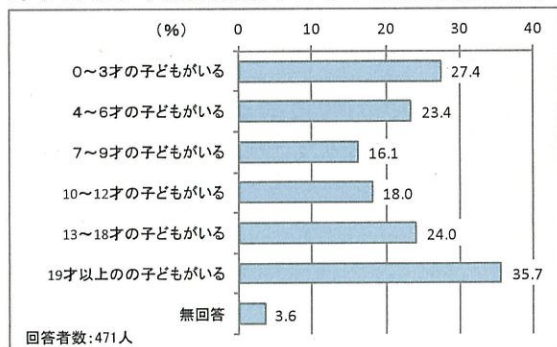
5) 子どもの人数



子どもがいる方の子どもの人数の内訳は「2人」が51.8%で全体の過半数を占めています。以下「1人」の26.8%、「3人」の16.1%となっています。

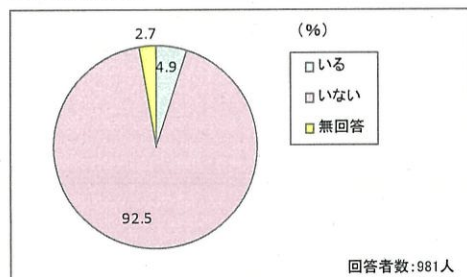
(子供がいる方)

5) 子どもの年齢階層別子どもの有無(複数回答)



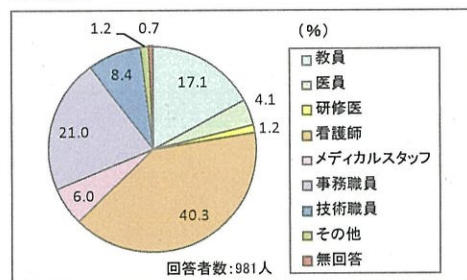
子どもがいる方を年齢階層別にみると「19才以上の子どもがいる」方が最も多く35.7%、以下「0~3才」の27.4%、「13~18才」の24.0%となっています。

6) 要介護者



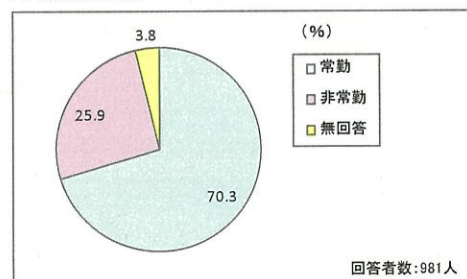
要介護者の有無では「いない」方が92.5%で「いる」方の4.9%を大きく上回っています。

7) 職種



最も多い職種は「看護師」の40.3%で、以下「事務職員」の21.0%、「教員」の17.1%となっています。

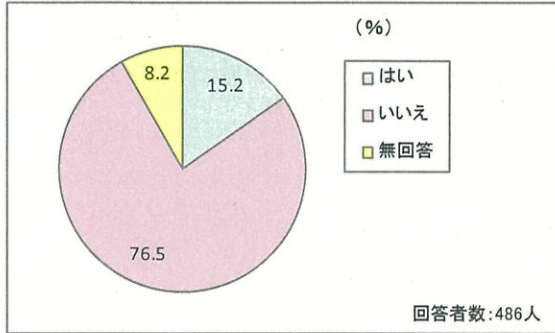
8) 勤務形態



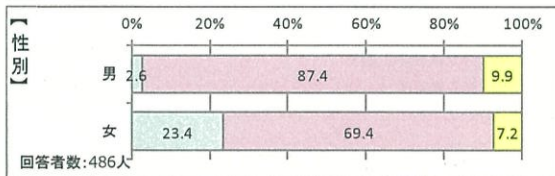
勤務形態は「常勤」が70.3%で「非常勤」の25.9%の約2.7倍となっています。

Q2. 勤務制度について (子ども・要介護者がある方)

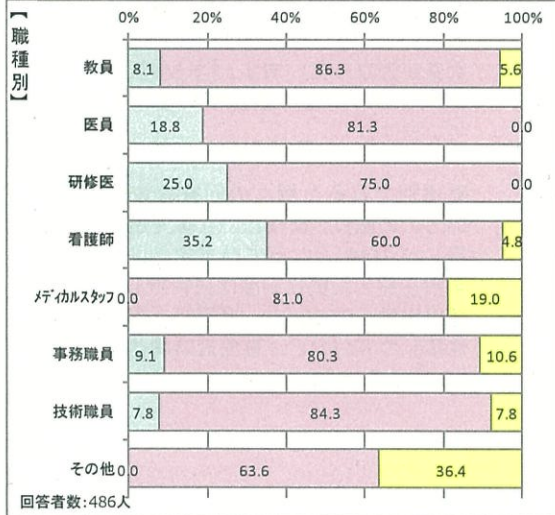
勤務制度を利用されたことはありますか



勤務制度を利用された方(「はい」と回答された方)は15.2%で利用されなかった方(「いいえ」と回答された方)の76.5%の約5分の1にとどまっています。



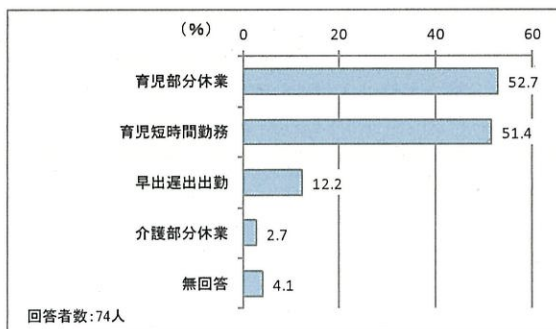
勤務制度を利用された方(「はい」と回答された方)を性別で見ると女性の23.4%に対して、男性は2.6%にとどまり、性別による違いが表れています。



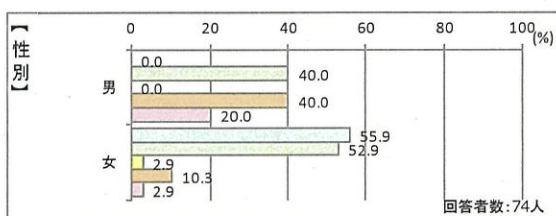
職種別で見ると看護師の35.2%が最も多く、以下、研修医の25.0%、医員の18.8%の順となっていますが、メディカルスタッフでは回答者はなく職種によっても違いが表れています。

(勤務制度を利用されたことがある方)

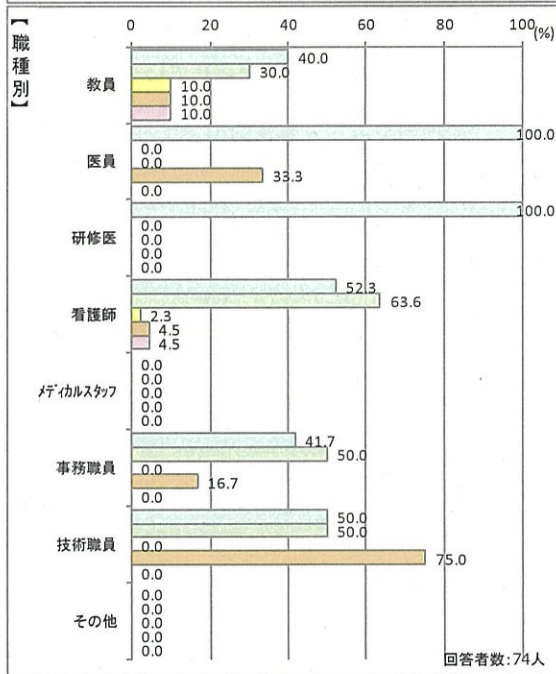
利用されたことがある勤務制度は何ですか(複数回答)



勤務制度を利用された方の最も多く利用されたことがある勤務制度は「育児部分休業」の52.7%で、次に「育児短時間勤務」の51.4%と、育児に関する2制度が全体の過半数を超えています。



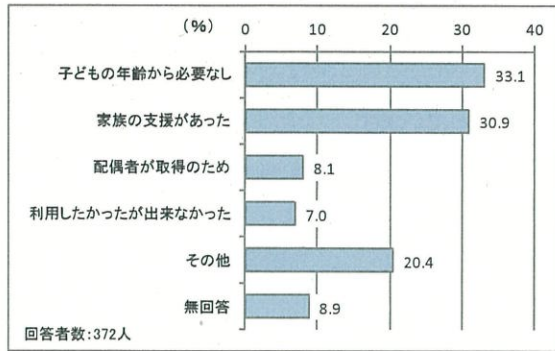
性別でみると全体で最も多い「育児短時間勤務」が女性でも55.9%と最も多くなっていますが、男性では回答者はなく男女差が際立っています。「早出遅出出勤」の割合のみ男性の割合が女性を上回っています。



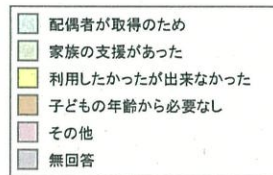
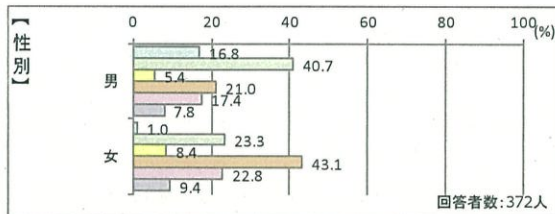
職種別でみると個々の回答者数は少ないものの医員・研修医で「育児短時間勤務」が100%となっています。以下、過半数を超えた勤務制度は技術職員「早出遅出出勤」の75.0%、看護師「育児部分休業」の63.6%と「育児短時間休業」の52.3%となっています。

(勤務制度を利用されたことがない方)

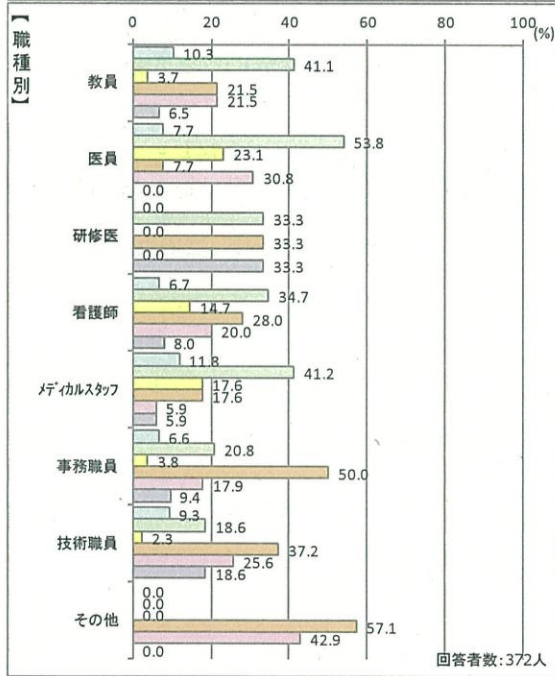
利用されたことがない理由は何ですか(複数回答)



勤務制度を利用されたことがない方の最も多い理由は「子どもの年齢から必要なし」の33.1%で、以下「家族の支援があった」の30.9%、「配偶者が取得のため」の8.1%となっています。



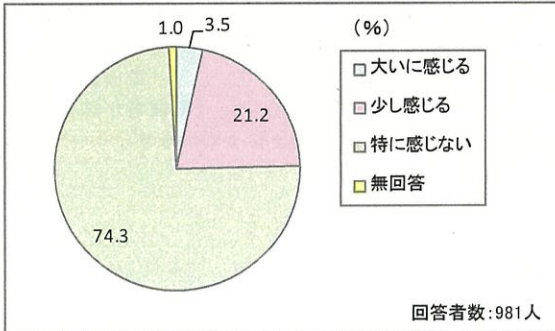
性別で見ると男性では「家族の支援があった」が最も多く、次に「子どもの年齢から必要なし」となっているのに対して、女性は順番が逆になっています。また、「配偶者が取得のため」は男性が16.8%に対して女性が1.0%となっており、性別で違いが表れています。



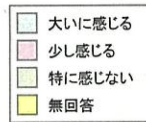
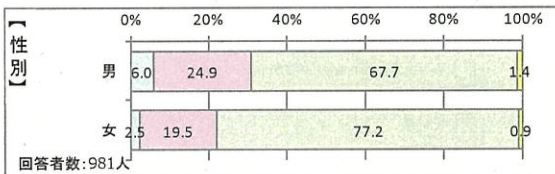
職種別で見ると教員・医員・看護師・メディカルスタッフでは「家族の支援があった」が最も多く、事務職員・技術職員・その他では「子どもの年齢から必要なし」が最も多くなっています。

Q3. 職場環境について

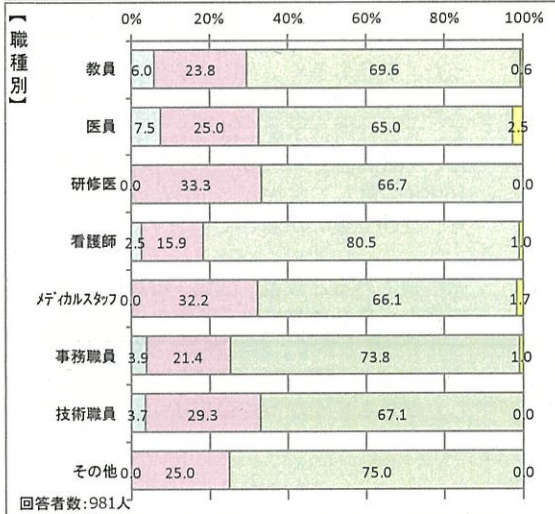
1) あなたの職場で男女差別を感じたことはありますか



職場での男女差別は「特に感じない」方が最も多く 74.3%で、以下「少し感じる」の 21.2%、「大いに感じる」の 3.5%となっています。



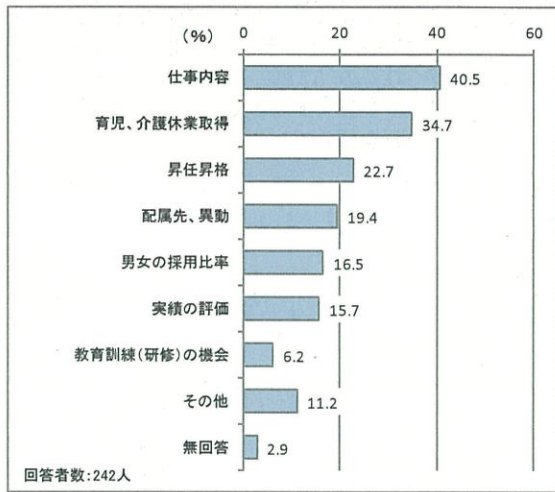
これを性別で見ると男女とも「特に感じない」が最も多くなっていますが、「大いに感じる」「少し感じる」の割合は、女性が 2.5%、男性が 6.0%と男性の方が多くなっています。



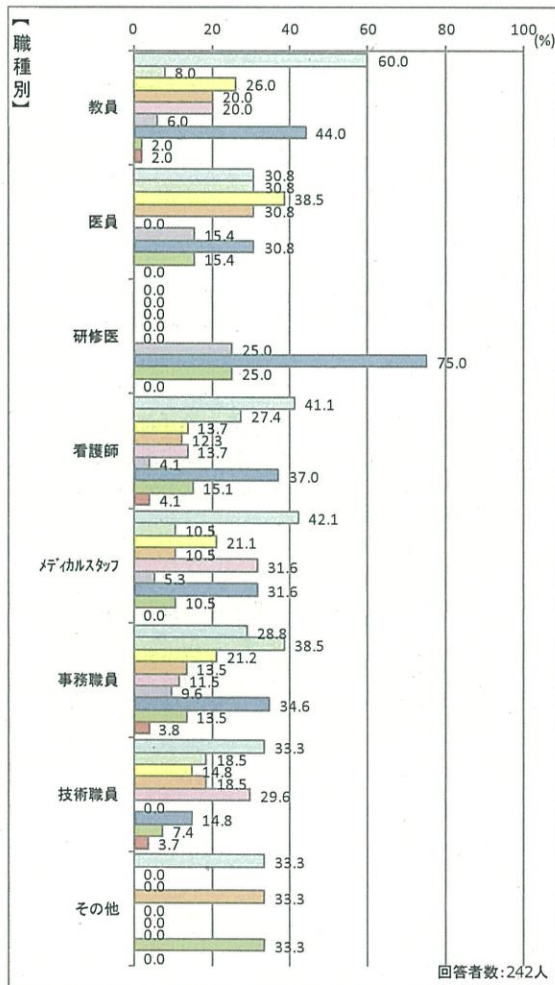
また、職種別でも、全職種とも「特に感じない」が最も多くなっていますが、医員・教員・事務職員・技術職員・の順で「大いに感じる」の割合が全体よりも多くなっています。

(男女差別を大いに感じる・少し感じる方)

2) 男女差別を感じるのはどの様な点ですか(複数回答)

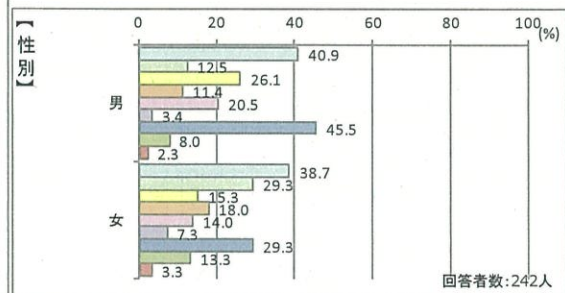


男女差別を感じる方の最も多く感じる点は「仕事内容」の40.5%で、以下「育児、介護休業取得」の34.7%、「昇任昇格」の22.7%となっています。

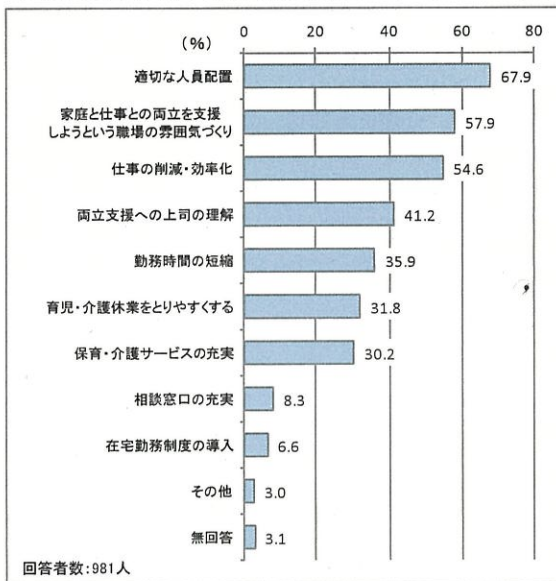


これを性別みると男性では「育児、介護休業取得」が最も多く、以下「仕事内容」「配属先、移動」の順ですが、女性では「仕事内容」が最も多く、以下、同率で「昇任昇格」「育児、介護休業取得」となっています。

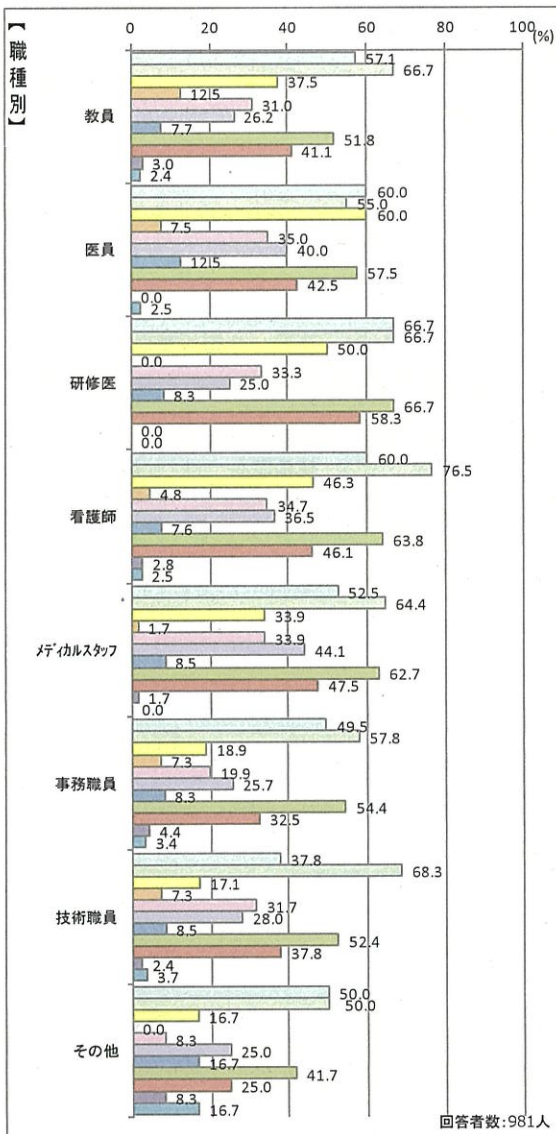
職種別でみると、教員・看護師・メディカルスタッフ・技術職員では「仕事内容」ですが、医員では「配属先、移動」、研修医では「育児、介護休業取得」、事務職員では「昇任昇格」が最も多く、職種によって違いが表れています。



3) あなたの仕事と私生活を両立するために、必要だと思うものは何ですか(複数回答)

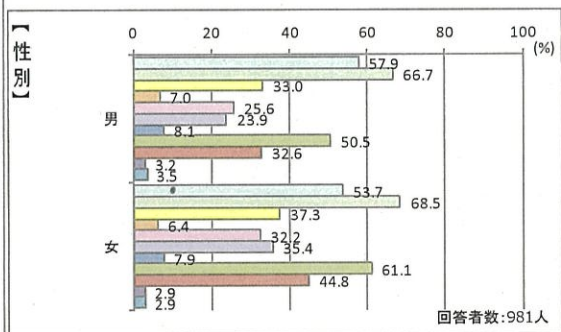


最も多く必要だと思うものは「適切な人員配置」の67.9%、以下「家庭と仕事との両立を支援しようという職場の雰囲気づくり」の57.9%、「仕事の削減・効率化」の54.6%となっており、ここまですべてが過半数を超えています。

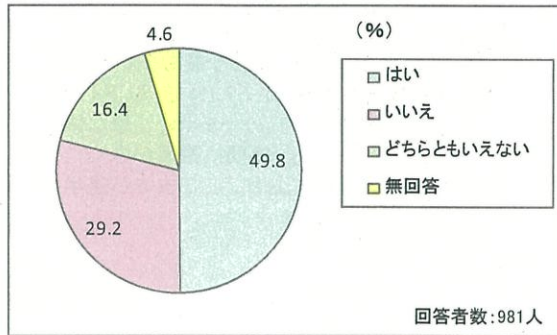


これを性別でも男女とも「仕事の削減・効率化」が最も多く、多少順番の違いはあるものの性別での大きな違いは表れていません。

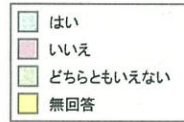
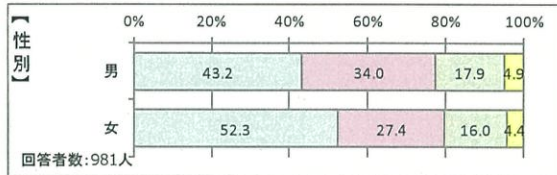
職種別でも上位3項目は殆ど変わりありませんが、医員では「勤務時間の短縮」が最も多く(同率で「仕事の削減・効率化」)、技術職員では「両立支援への上司の理解」が3番目に多くなっています。



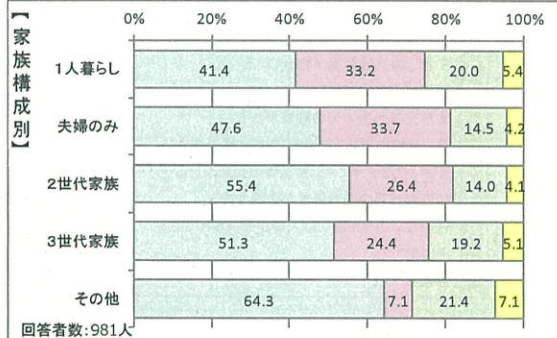
4) 子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思いますか



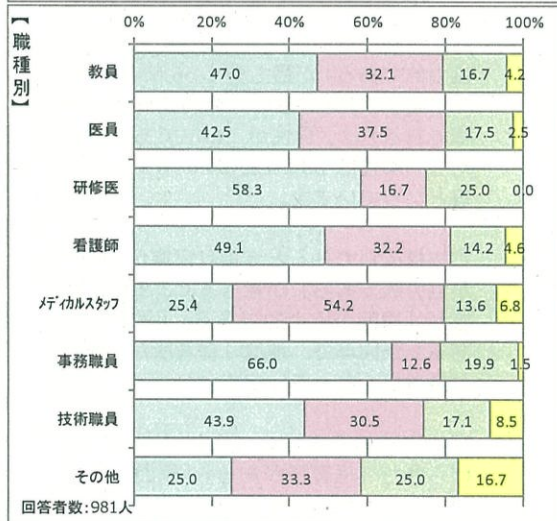
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思うに「はい」と回答された方は49.8%で、ほぼ過半数となっています。「いいえ」の29.2%を20.6ポイント上回っています。



これを性別で見ると、「はい」「いいえ」の順に変わりありませんが、男性は「はい」の割合が減り、その分「いいえ」の割合が増えています。



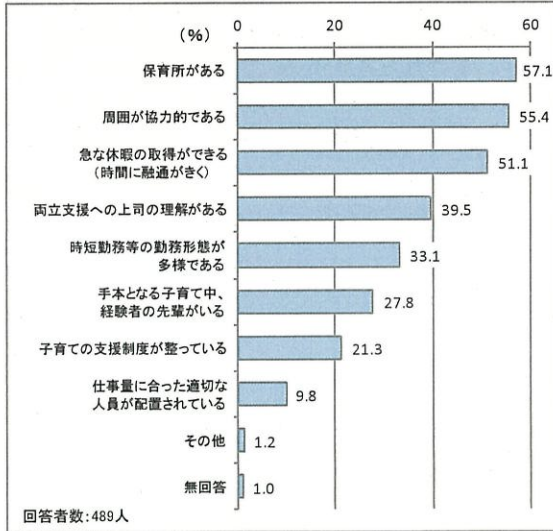
家族構成別でも全て「はい」「いいえ」の順は変わりありません。「はい」の割合が最も多いのは2世代家族で、以下3世代家族、夫婦のみ、1人暮らしとなっています。



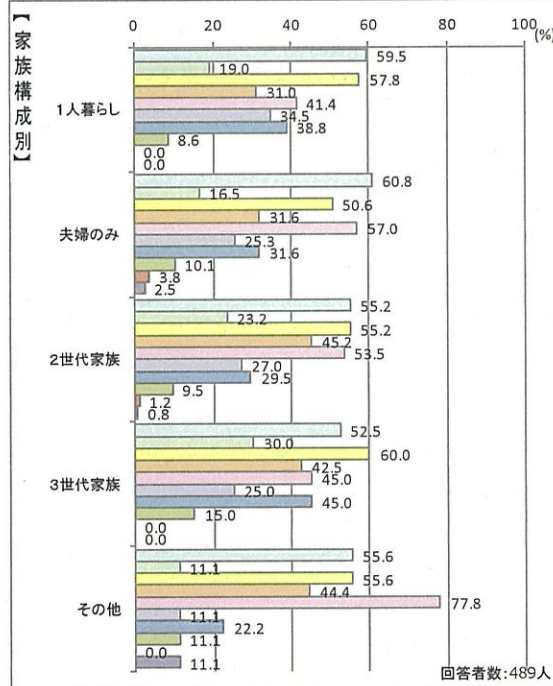
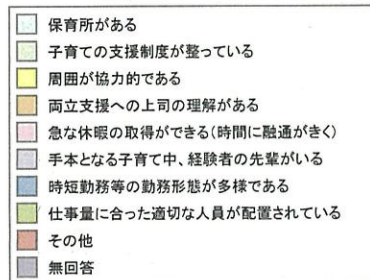
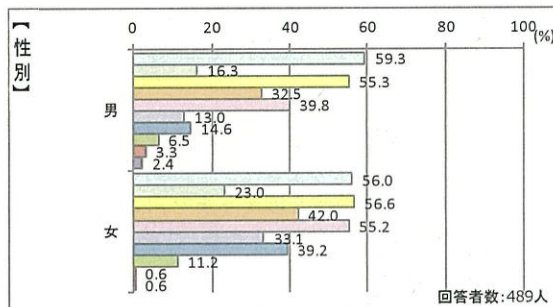
職種別で見るとメディカルスタッフで「いいえ」が「はい」を上回っており、54.2%と過半数を超えています。

(子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う方)

4) そう思う理由は何ですか(複数回答)



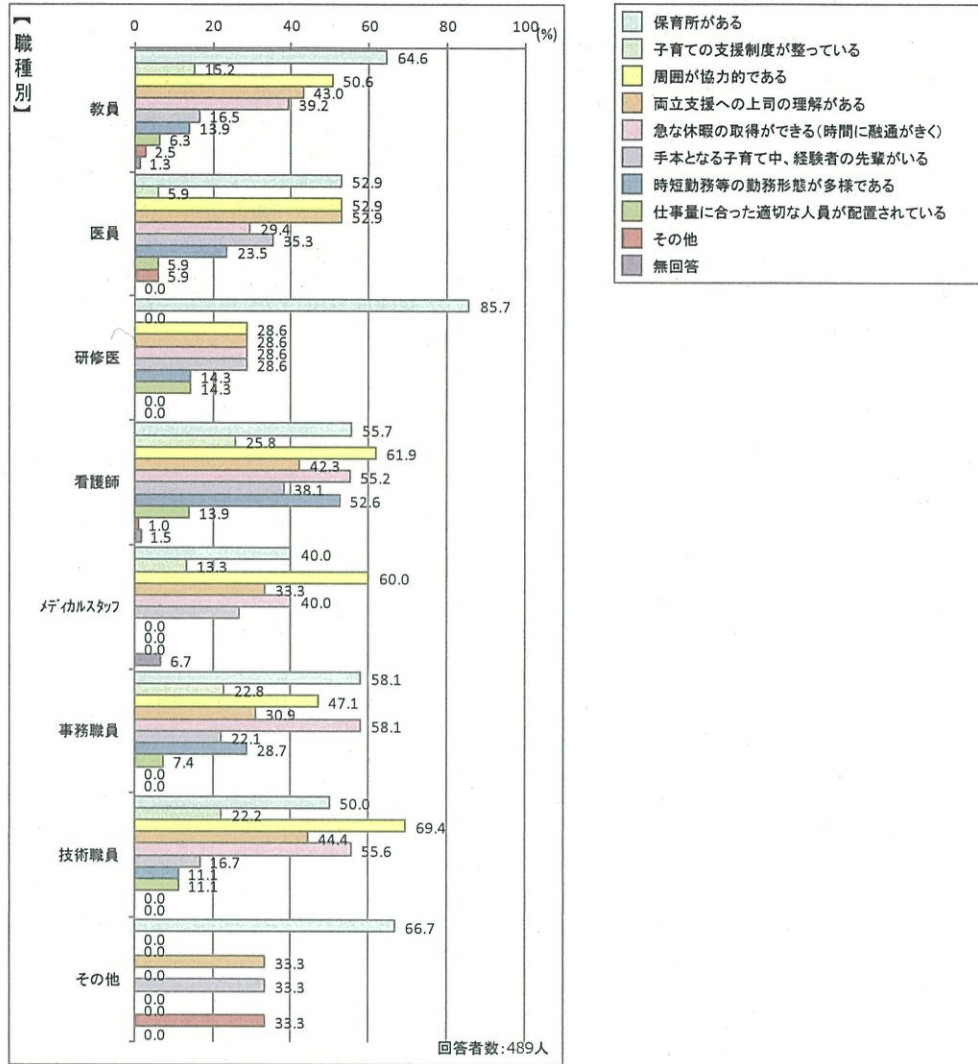
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う最も多い理由は「保育所がある」が57.1%で、以下「周囲が協力的である」の55.4%、「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」の51.1%となっており、ここまですべてが過半数を超えています。



これを性別でみると男性は「保育所がある」が最も多く59.3%、女性は「周囲が協力的である」が最も多く56.6%となっています。「時短勤務等の勤務形態が多様である」は、男性が14.6%であるのに対し、女性は39.2%と24.6ポイントの差となっています。

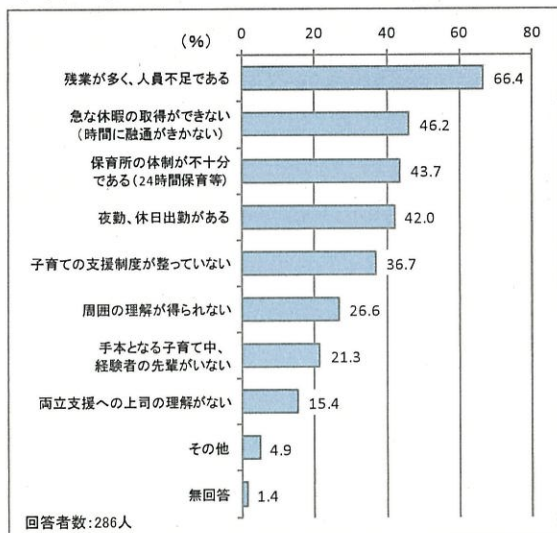
家族構成別でみると3世代家族が「周囲が協力的である」が最も多く、2世代家族が「周囲が協力的である」「保育所がある」が同率で、他は「保育所がある」が最も多くなっています。

職種別でみると全体で上位の理由に挙げられた「保育所がある」「周囲が協力的である」「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」のいずれかが最も多くなっていますが、医員では同率の理由はあるものの「両立支援への上司の理解がある」が最も多くなっています。

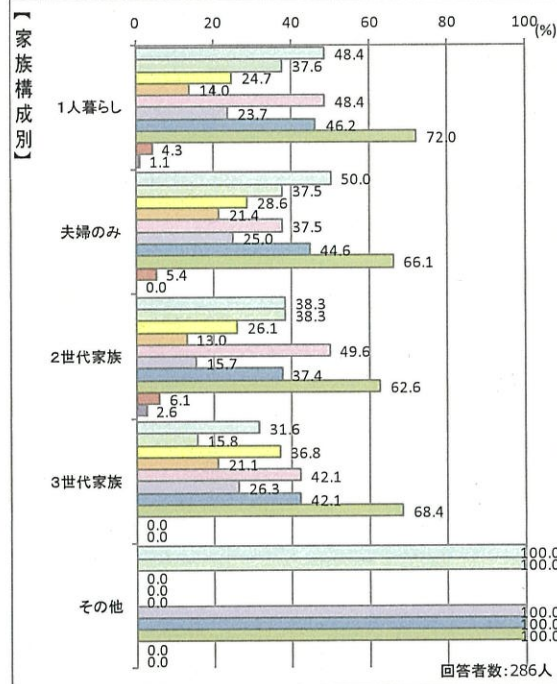
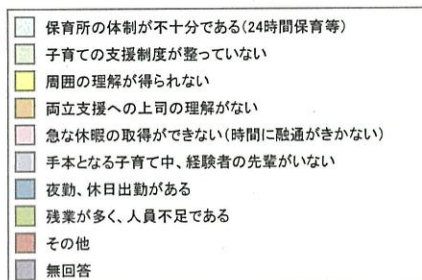
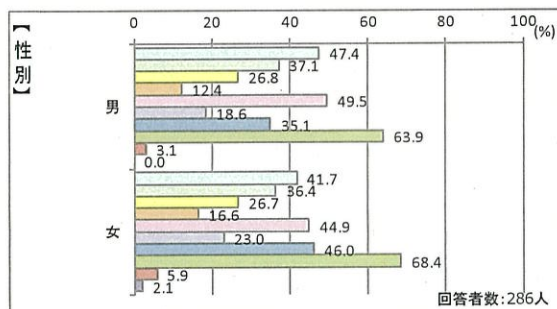


(子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない方)

4) そう思わない理由は何ですか(複数回答)



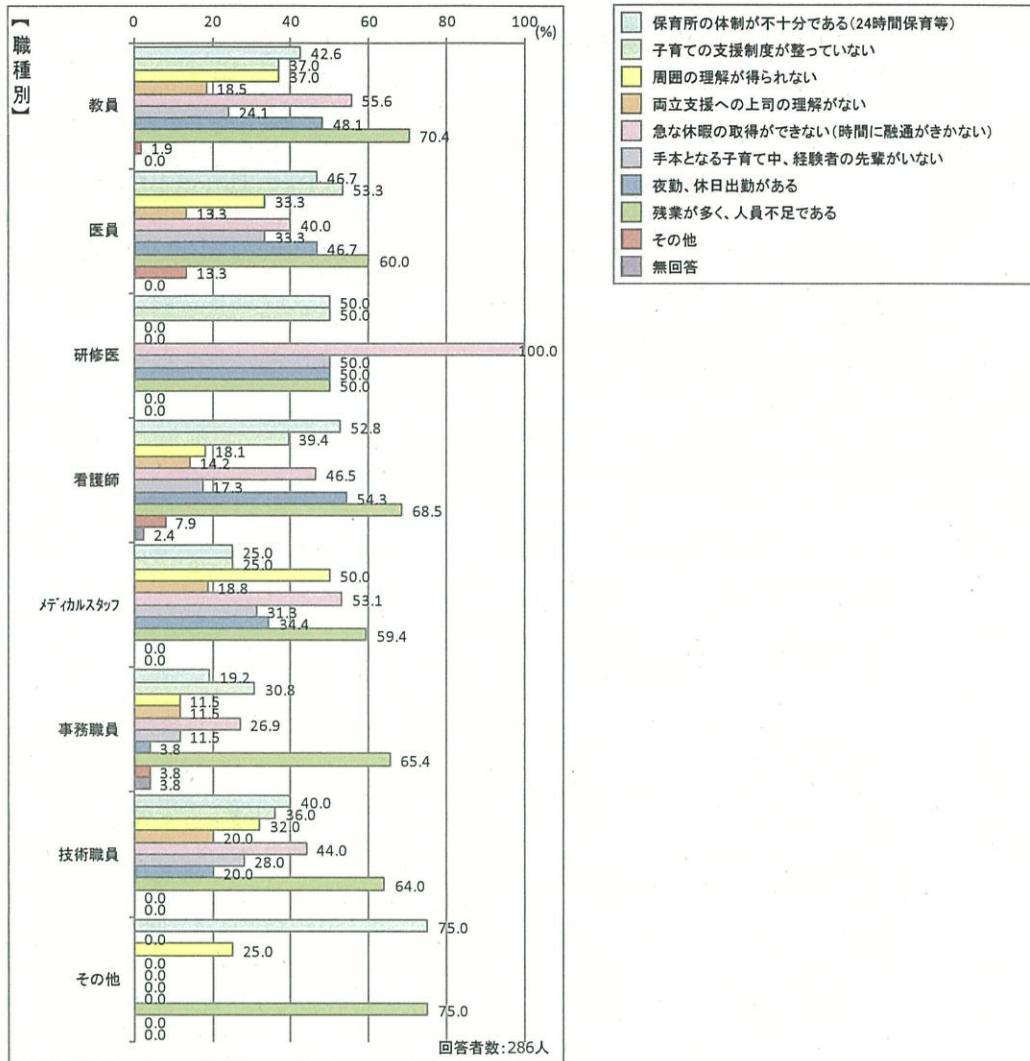
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない最も多い理由は「残業が多く、人員不足である」の66.4%で、以下「急な休暇の取得ができない(時間に融通がきかない)」の46.2%、「保育所の体制が不十分である(24時間保育等)」の43.7%となっています。



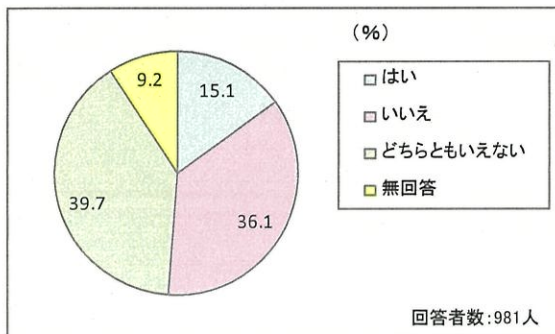
性別で見ると男女とも「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。男性は2番目、3番目も全体と変わりありませんが、女性は2番目に多いのが「夜勤、休日出勤がある」となっています。

家族構成別では、いずれも「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。2世帯家族で「子育ての支援制度が整っていない」が3番目に多くなっています。

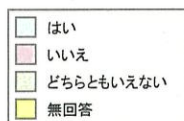
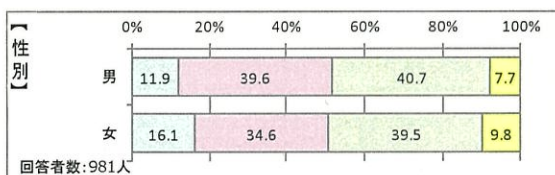
職種別では、研修医が「急な休暇の取得ができない」が最も多くなっている以外では「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。



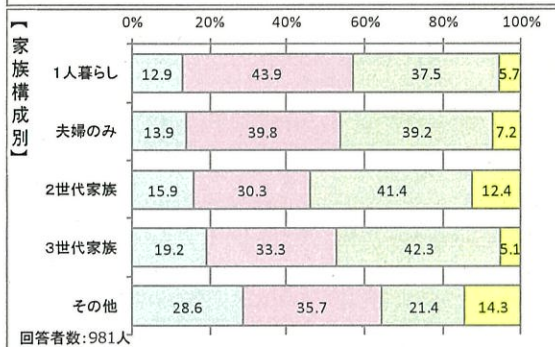
5) 介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思いませんか



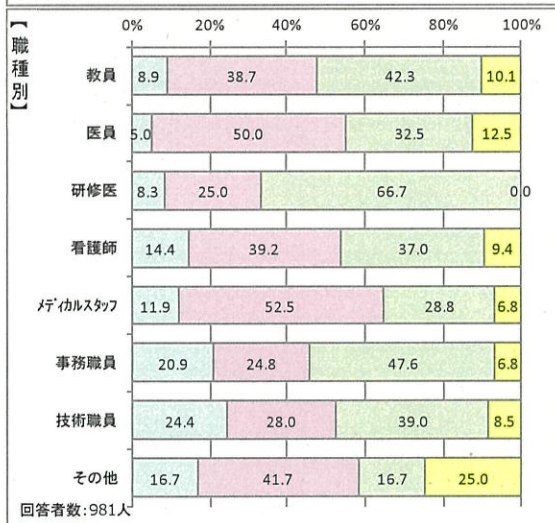
介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思うに「はい」と回答された方は15.1%で、「いいえ」の36.1%の約5分の2にとどまっています。また「どちらともいえない」が39.7%と最も多くなっています。



これを性別でもみても傾向は変わりありません。



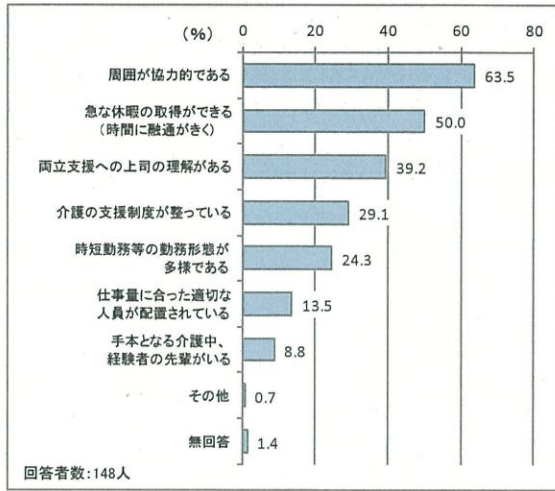
家族構成別では、1人暮らしと夫婦のみで「いいえ」が最も多くなっています。「はい」の割合が最も多い家族構成は3世代家族で19.2%となっています。



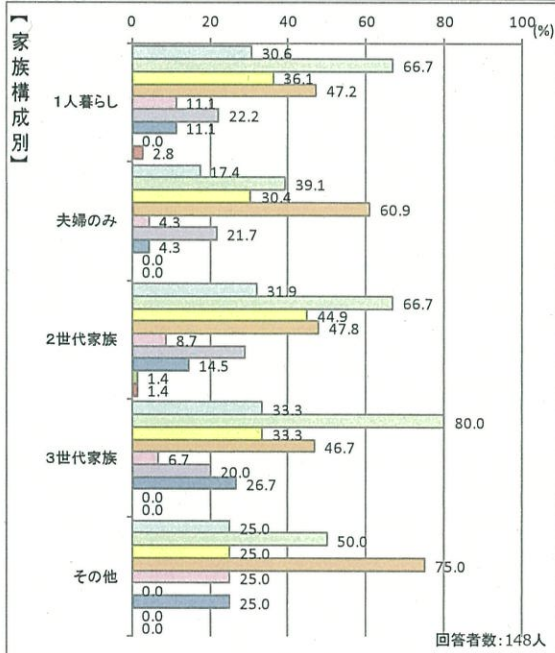
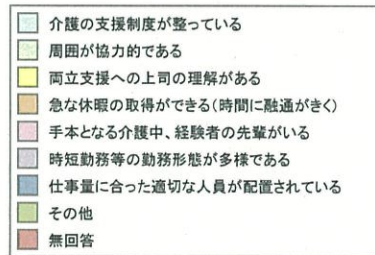
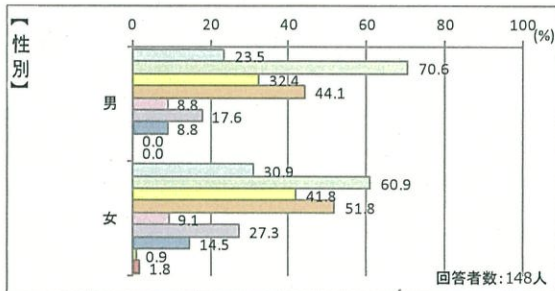
職種別では、医員・看護師・メディカルスタッフで「いいえ」の割合が過半数を超えています。特に医員・メディカルスタッフでは「いいえ」の割合が最も多い職種は技術職員で24.4%となっています。

(介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う方)

5) そう思う理由は何ですか(複数回答)



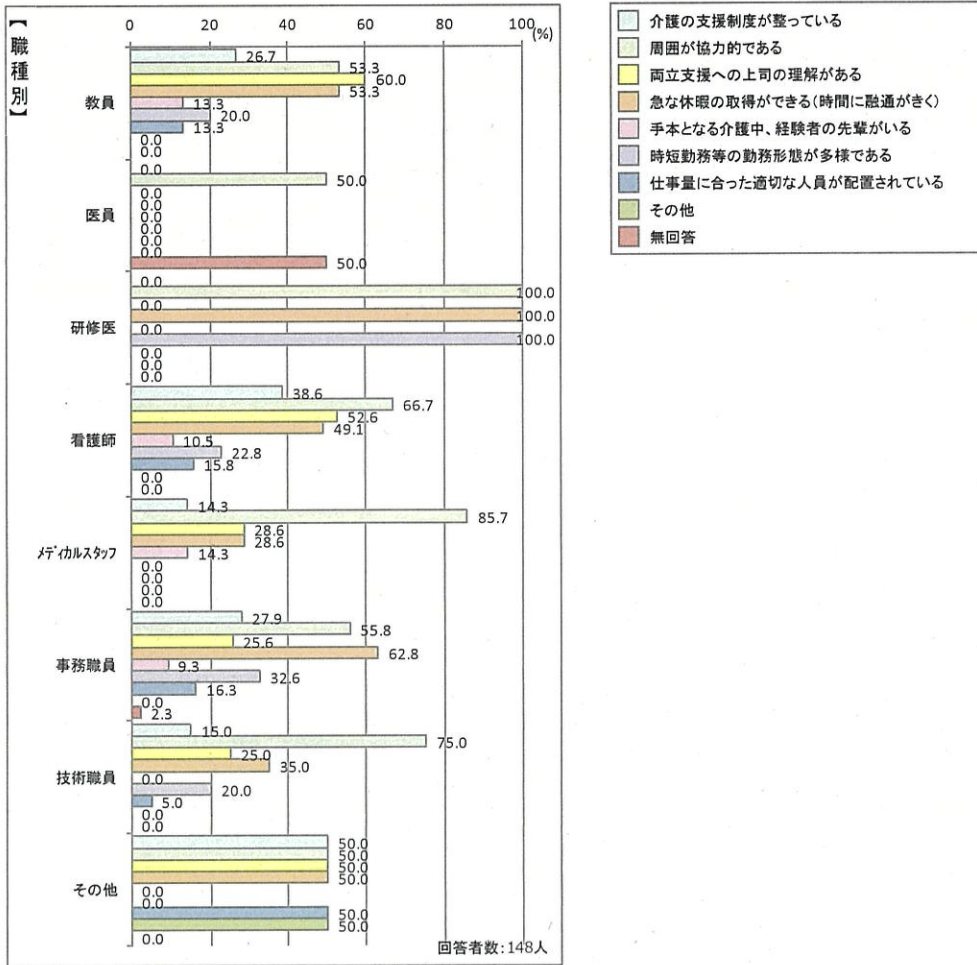
介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う最も多い理由は「周囲が協力的である」の63.5%で、以下「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」の50.0%、「両立支援への上司の理解がある」の39.2%となっています。



これを性別でもみても傾向は変わりありません。

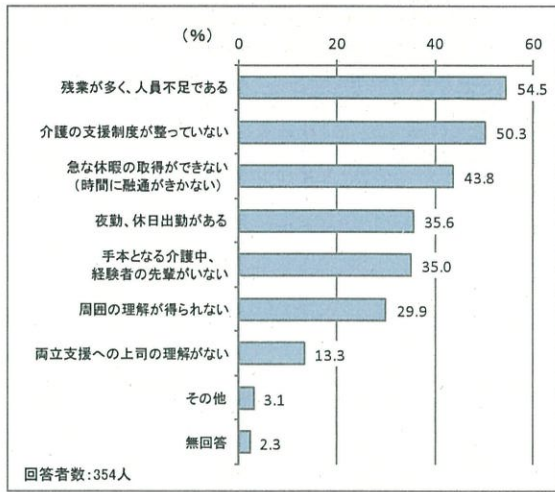
家族構成別で見ると夫婦のみで「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」が最も多い以外は「周囲が協力的である」が最も多くなっています。

職種別では個々の回答者数が少なくなるため回答にばらつきがあります。

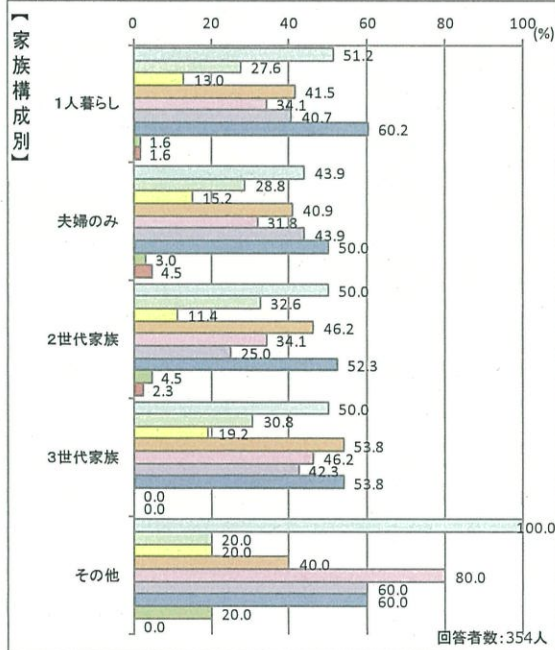
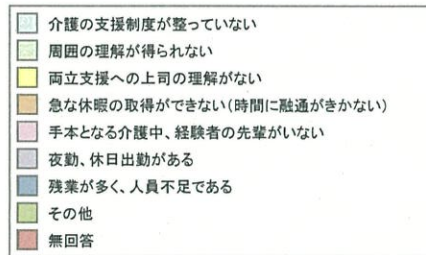
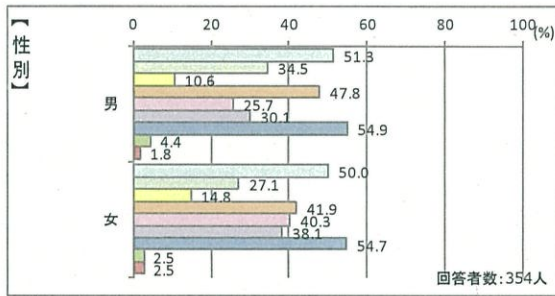


(介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない方)

5) そう思わない理由は何ですか(複数回答)



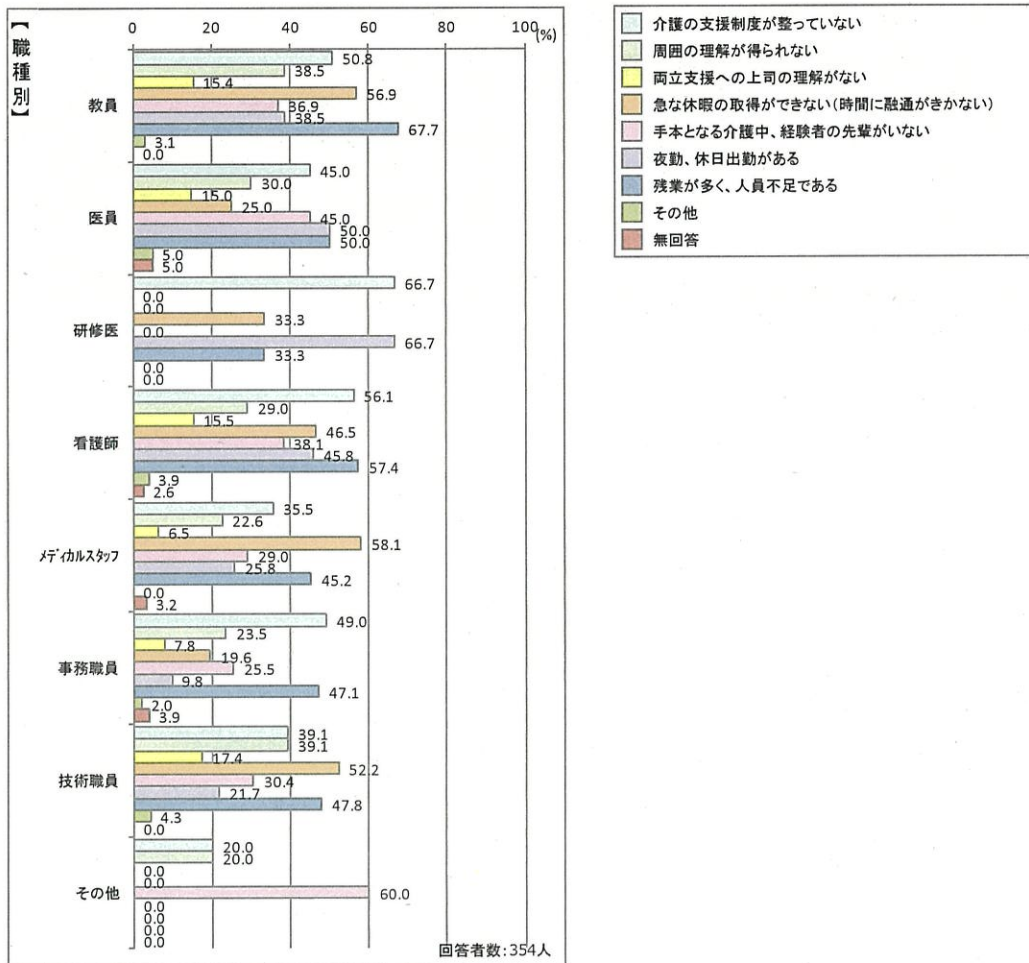
介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない最も多い理由は「残業が多く、人員不足である」の54.5%で、以下「介護の支援制度が整っていない」の50.3%、「急な休暇の取得ができない(時間に融通がきかない)」の43.8%となっています。



これを性別でも男女とも「残業が多く、人員不足である」が最も多く、傾向は殆ど変わりありませんが、女性では「手本となる介護中、経験者の先輩がいない」が3番目と殆ど差のない4番目となっています。

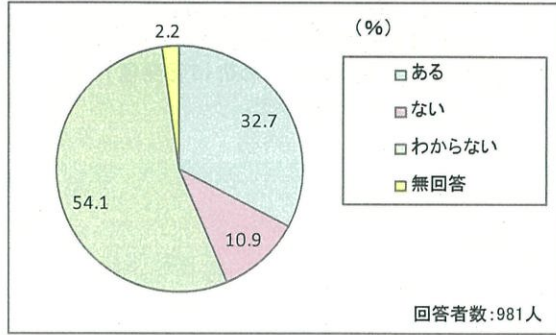
また家族構成別でもいづれも「残業が多く、人員不足である」が最も多く、傾向も殆ど変わりありませんが、夫婦のみで「夜勤、休日出勤がある」が2番目に多くなっています。

職種別では職種によってばらつきがみられます。

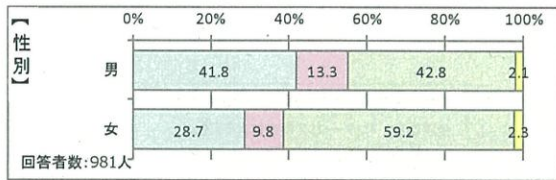


Q4. 本学の男女共同参画の取り組みについて

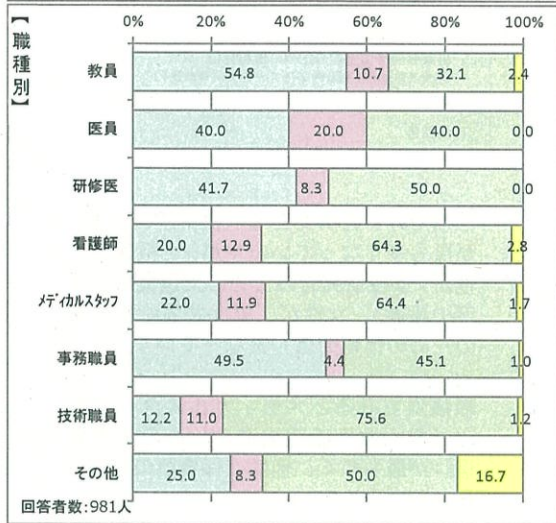
この3年間に、本学の男女共同参画の取り組みで進んだと感じるものはありますか



本学の男女共同参画の取り組みが進んだと感じるものが「ある」と回答された方が32.7%、「ない」が10.9%に対して、「わからない」が54.1%と最も多くなっています。



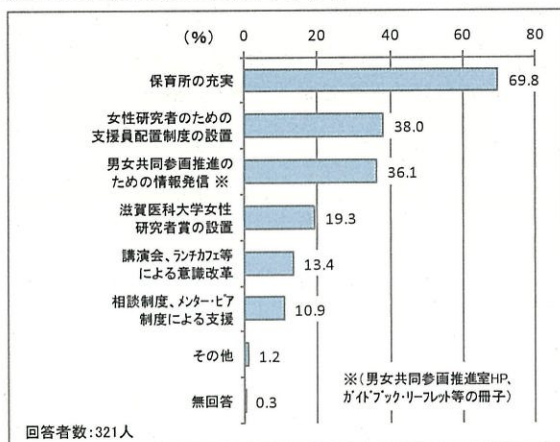
これを性別でみると「ある」「ない」とも女性より男性の割合が多くなっています。



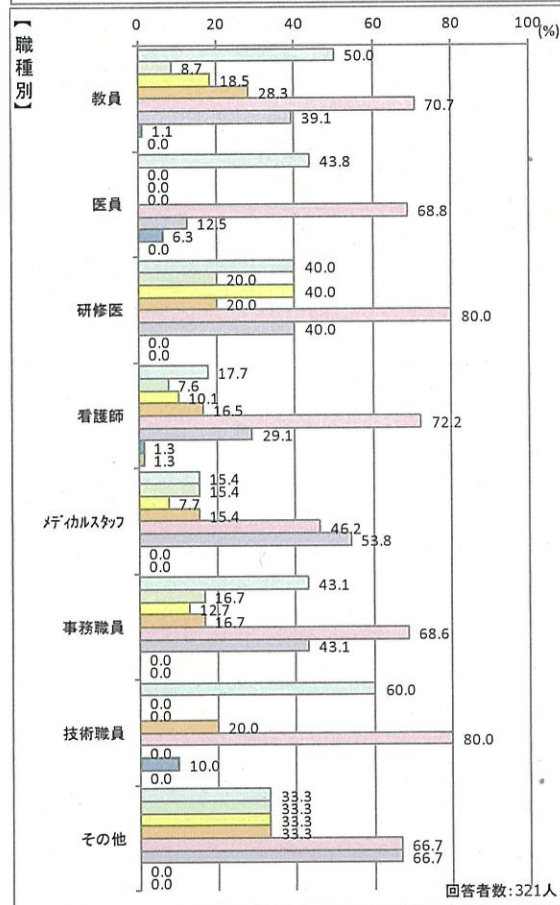
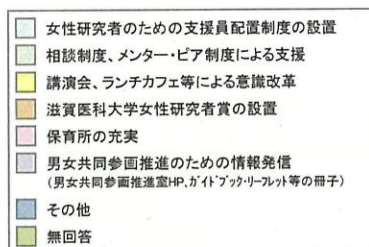
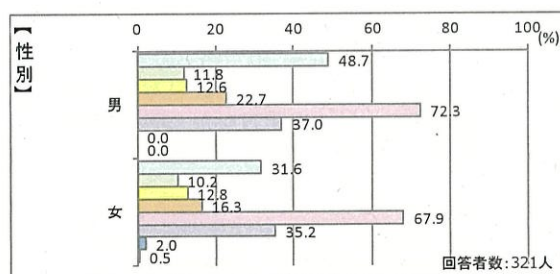
職種別でみると、いずれも「ある」が「ない」より多くなっています。特に教員・事務職員では「ある」と回答された方が「わからない」を抜いて最も多く、医員は「わからない」と同率で最も多くなっています。

(本学の男女共同参画の取り組みで進んだと感じるものがある方)

進んだと感じるものは何ですか



最も進んだと感じるものは「保育所の充実」で 69.8%、以下「女性研究者のための支援員配置制度の設置」が 38.0%、「男女共同参画推進のための情報発信」が 36.1%となっています。



性別でみると男女とも「保育所の充実」が最も多くなっていますが、2番目は男性が「女性研究者のための支援員配置制度の設置」、女性が「男女共同参画推進のための情報発信」となっています。

職種別でみるとメディカルスタッフのみ「男女共同参画推進のための情報発信」が最も多く、他は「保育所の充実」となっています。